

クマタカ

大型の猛禽類で、北海道から九州までの山地の森林に分布し、急傾斜地の大木に営巣する。ノウサギを主な食物とし、テン、ヤマドリ、シマヘビなどの哺乳類や鳥類、ヘビ類を林内や林縁で採餌する。

全国での生息数は1,800羽以上で、近年、繁殖率の低下が報告されており、レッドデータブックでは、カテゴリー「EN(絶滅危惧 B類)」に位置付けられ(平成18年12月の改訂レッドリストでもEN)、種の保存法に基づく国内希少野生動物種に指定されている。



分布の概要

クマタカ *Spizaetus nipalensis* は、スリランカ、インド南部、ヒマラヤ地方、中国の揚子江以南の東南部、インドシナ半島、台湾、海南島、朝鮮半島、日本等に分布・繁殖し、中国東北部からも記録がある。

亜種については、3亜種に分類されることが多く、日本と朝鮮半島に分布・繁殖し、中国東北部でも記録されているものは、亜種クマタカ *S.n.orientalis* である。朝鮮半島での記録数は少なく生息状況は不明であり、本亜種の主な分布域は日本である。

日本では留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布している。

生物学的特性

九州以北の山地のよく茂った森林に生息し、巣は急傾斜地の大木に作る。本州中部では標高500~1,000mくらいにすむ。普通は雌雄で生活し、縄張りは13~25km²前後が多い。食物は中型以上の鳥類や哺乳類等で、主としてノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類等である。造巣は1~2月で3月頃に産卵する。卵は4~5月に孵化し、雛は7~8月に巣立つ。

食性

餌の種類は多く、森林に生息するさまざまな中小動物であるが、ノウサギ、キジ類(キジ、ヤマドリ)、ヘビ類(アオダイショウ、ヤマカガシ等)の3グループが大半を占める。他に、哺乳類ではモモンガ、ムササビ、アナグマ、リス、テン、イタチ、ネズミ類、ヒミズ類、キツネ・タヌキの幼獣等、鳥類ではライチョウ、コジュケイ、カケス、カラス類、ヒヨドリ、キジバト、アオバト等と多様である。

本資料は、「レッドデータブック(2002.8)」、「猛禽類保護の進め方(1997.12)」等より作成